

# 発達障害のある学生の教育から就労への移行支援のための研修教材の開発

○清野 絵 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所)  
 榎本 容子 (独立行政法人国立特別支援総合研究所)  
 井戸 智子 (名古屋大学 心の発達支援研究実践センター)

## 1 背景と目的

近年、発達障害のある学生の教育から就労への移行について関心が高まっている。

発達障害のある人の就職では、一般求人でも働く選択肢(一般雇用)と、障害者手帳を取得し、障害者求人でも働く選択肢(障害者雇用)がある。また、事前に職業リハビリテーションサービス等を受ける選択肢もある。このように、障害のある学生の場合、「一般の学生に比べて就職活動が複雑になる」ため、「対話の中で障害のある学生の意向をつかみながら、早い段階から多様な職業観に関する情報や機会」を提供することの重要性が指摘されている<sup>1)</sup>。

他方、発達障害がある場合、就労時に「業務遂行」「対人関係・コミュニケーション」「ルール・マナー」「行動面」「自己理解や精神面」において課題が生じやすいことが指摘されている<sup>2)</sup>。障害を開示し、障害特性に即した配慮を受けることができれば、安定して働き続けることができる可能性が高まると考えられる。しかし、学校卒業時の初職の段階で、必要に応じて障害者雇用を選択することは容易ではない。この理由として、発達障害のある学生の場合、長年、通常の学級に在籍し、その後、大学進学したケースも少なくないと考えられ、自分の障害と向き合い、支援制度の利用について考えるための段階的な支援が必要となることが挙げられる。

こうした中、我々は、大学のキャリアセンターにおける、発達障害のある学生の支援に当たったの困りごととして図1の9つの内容を整理した<sup>3)</sup>。この結果から、大学の支援者の人材育成が重要となることが見出された。具体的には、大学の支援者に対し、発達障害のある学生の支援に当たり必要となる基本的な知識のほか、学生や保護者に対する支援や、企業との連携方法に関する具体的なノウハウを分かりやすく提供する必要があると考えた。また、そのための具体的方法論として「研修教材」の必要性に着目した。

本発表では、一連の研究を基に、我々が現在開発中の大学の支援者向けの研修教材を紹介し、教材の特色や、教材の改善及び活用に関する今後の課題と展望を報告する。

## 2 方法

研修教材の作成プロセスは、①文献調査、②質問紙調査、③就職や職場定着のために習得したい知識・スキルの整理、④研修内容の検討、⑤研修教材の作成であった。なお、本研究は、発達障害のある人の就労やキャリア支援について知識を有する研究者と、大学のキャリアセンターで発達障

害のある学生等への就労支援を行ってきた実践者との協働で開発を進めた。

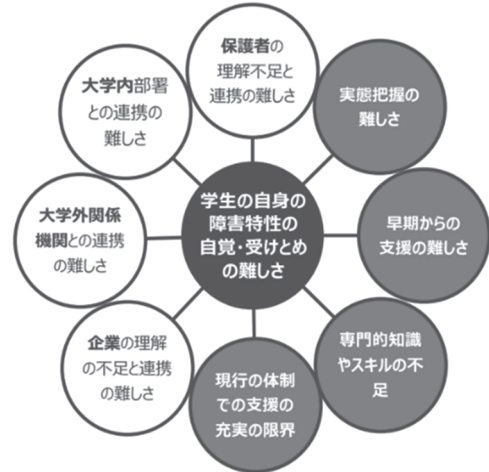


図1 発達障害のある学生の支援に当たったの困りごと

## 3 就労移行支援のための研修教材(試案)

これまでに開発した教材案は表1のとおりである。このうち、本発表では「教材I-1」について報告する。

表1 これまでに開発した研修教材案

教材の種類	内容
I 大学のキャリアセンター職員等対象の研修教材	1 発達障害やその疑いのある学生に対する大学でのキャリア支援・就職支援体制の構築に関する基礎知識 2 発達障害やその疑いのある学生に対する大学でのキャリア支援・就職支援の実際に関する基礎知識 3 専門機関との連携に関する基礎知識
II 発達障害のある学生(疑い含む)対象の研修教材	1 進路選択の基礎知識 2 キャリア形成・就職活動の基礎知識
III 大学の連携先となる保護者対象の研修教材	1 キャリア形成・就職活動の基礎知識 2 進路選択の基礎知識
IV 大学の連携先となる企業対象の研修教材	1 発達障害やその疑いのある学生に対するキャリア支援・就職支援に関する基礎知識 2 企業と大学等との連携に関する基礎知識

\*各教材は、90分程度で研修による情報提供を行うことを想定。

\*教材IIからIVは、学生や保護者への支援、企業との連携に活用できる教材として作成。教材を通じ、ノウハウを学ぶ形とした。

## 4 研修教材の例(教材I-1)

教材は、「ワークシート」「研修講義の展開案」「研修講義資料」から構成される。以下に一例を示す。

## <ワークシートの内容（一例）>

特色：典型的な困難事例（学生の自身の障害への気付きや受けとめの不足等から、対応が遅れた事例）を例に、支援体制や連携を考えるきっかけを提供できるようにした。

**【架空事例の内容】**

発達障害の疑いのある学生に対し、学内で支援体制を構築したい。

- 経済学部・男子。3年生の2月下旬に、キャリアセンターへ相談予約なしに初めて来室。「すぐに相談したい」と主張して帰らないので、最後の学生相談の後に、「初回だから特別に・・・」と、通常の相談時間の半分の時間で対応した。
- 相談席に着くなり、「就職活動のやり方が分からない。キャリアセンターの就職ガイダンスは、忘れていて行かなかった」、「エントリーシートの書き方もよく分からない。締め切りに間に合わず、応募できないこともあった」などと一方的に話し続けた。
- 「卒業に必要な単位は4年生の前期試験でギリギリ取得できる」と話すが、本人が自分の履修状況をよく分かっていないような様子もある。「レポートの提出場所を間違えて、教務課の職員に『怒られた』ことがあるから、教務課に相談に行くのは嫌」とのこと。「大教室での授業は聞き取りにくくて、授業をついさぼってしまう」とも話す。
- 「実家は遠方で、大学の近くに一人暮らし。大学で嫌なことがあると、夜になってもイライラが続いて眠れなくなる。たまに授業の合間に保健センターで昼寝をさせてもらっていて、その時は、なじみの受付の職員と話して結構楽しい」とも話す。

**【ワークシートに記入すること】**

- ① この学生の就職支援を進める上で、どのような課題がありますか？
- ② その課題の克服のために、どのような支援が考えられますか？（支援の内容、連携部署など）

## <研修講義の展開案（一例）>

特色：発達障害の知識や障害学生への就労支援経験が乏しい支援者が支援体制や連携の基本を学べるようにした。

- 研修の対象者：大学のキャリアセンター職員等 20名程度（初学者を想定、他部署職員や教員の参加も可）
- 研修時間：90分（休憩なし）
- 準備資料：
  - ・ 講義資料（パワーポイント資料）
  - ・ 個人ワーク用ワークシート（A4版・2枚）
  - ・ グループワーク用ワークシート（A4版・1枚）
- 研修の目的：
  - ・ 発達障害に関する基礎知識を学び、発達障害やその疑いのある学生に対して、大学でのキャリア支援・就職支援が円滑に進むような学内の支援体制の構築に役立つものとなること。
  - ・ 大学内での発達障害学生支援の啓発・普及に役立つものとなること。
- 研修の展開：
  - ① 研修のねらい・進行などについての説明 [5分]
  - ② 講義（発達障害について、大学でのキャリア支援・就職支援体制の構築について） [15分]
  - ③ 個人ワーク（架空事例に関するワークシートへの記入） [10分]
  - ④ グループワーク（個人ワークの共有、各グループの発表） [40分]
  - ⑤ グループワークの振り返り・講師によるまとめ [10分]
  - ⑥ 質疑応答 [10分]

## <研修講義資料（パワーポイント資料）（一例）>

特色：発達障害学生の学生生活上の課題ごとに、大学のどの部署がかかわる可能性があるのか、その後どのように連携すると就労支援に結び付いていくか学べるようにした。

**発達障害やその疑いのある学生の学生生活上の課題**

- 大学生活になじみにくい(学内での居場所を見つけにくい)。
- 友人などとの人間関係のトラブルに巻き込まれやすい。
- 卒業要件に合った履修登録でつまづきやすい。
- 授業、レポート、試験などへの対応が難しい。
- ★ 不規則な生活から心身の不調になりやすい。
- ★ (親などとの)家族関係でのストレスを溜め込みやすい。

学生課  
教務課  
学生相談室  
保健センター  
など 13

**架空事例から考えられる学内の連携案（1）**

- 「『すぐに相談したい』と主張して帰らないので、最後の学生相談の後に、『初回だから特別に・・・』と、通常の相談時間の半分の時間で対応した。」
- NGI ー【学生支援部署との連携】  
・「キャリアセンター利用ガイド」の学生支援部署への設置を検討。
- 「キャリアセンターの就職ガイダンスは、忘れていて行かなかった」
- ー【学生支援部署との連携】  
・ガイダンスの学生へのインフォメーション方法の強化を検討。  
(例:ガイダンスが授業時間内の場合は、教務課にインフォメーションを強化してもらう等)
- 「卒業に必要な単位は4年生の前期試験でギリギリ取得できる」、「本人が自分の履修状況をよく分かっていないような様子もある」
- ー【教務課との連携】  
・これまでの履修状況について確認し、4年生の前期の履修登録のサポートを検討。

26

## 5 今後の課題と展望

今後の課題としては、これまで実施した調査結果等で把握した、教育から就労への移行に関する課題について本研修教材に入れ込んだ内容を体系的に関連を整理し、大学におけるどのような支援が円滑な就労への移行を支援するかを、大学の支援者が学ぶことができる研修内容にすることが挙げられる。

ここで紹介した研修教材は、試案段階のものであるため、今後は、研修の講師や受講者となる人の実際の意見、研修の試行と試案の改善を行うことで、最終的な研修教材の完成を行う予定である。また、ニーズに応じて新たな教材を追加するなどの改善、普及啓発を検討していきたい。

### 【参考文献】

- 1) 障害のある学生の修学支援に関する検討会『障害のある学生の修学支援に関する検討会報告（第二次まとめ）』, (2017)
  - 2) 障害者職業総合センター『発達障害者の職業生活上の課題とその対応に関する研究—「発達障害者就労支援レファレンスブック」活用のために—』, 「資料シリーズNo. 84」, (2015)
  - 3) 榎本容子・清野絵・木口恵美子『大学キャリアセンターの発達障害学生に対する就労支援上の困り感とは？—質問紙調査の自由記述及びインタビュー調査結果の分析から—』, 「福祉社会開発研究10号」, (2018), p. 33-46.
- \*付記 本発表の取組にあたっては、安藤美恵氏（国家資格 キャリアコンサルタント）の協力を得ました。  
\*井戸智子：現所属・トヨタ自動車

### 【連絡先】

清野 絵 e-mail : seino-kai@rehab.go.jp